

平成31年度重点目標達成のための行動計画（アクションプラン）

高岡市立こまどり支援学校

具体的な達成目標

- 歯みがきの習慣化** → 学校評価アンケート80%以上
児童生徒が、毎食後、進んで歯みがきに取り組もうとする。（家庭との連携強化）
（必要な口腔ケアを受け入れることができる。）
- 情報機器活用能力の向上** → 学校評価アンケート80%以上
児童生徒が、情報機器（ICT）を活用し、主体的に表現しようとする。（表現力強化）

前年度

「歯みがきの習慣化」については、給食後の歯みがきの徹底や歯みがきカレンダーによる評価が定着しており、**教員【96%】・保護者【86%】**という高い達成度となった。
「情報機器活用能力の向上」については、情報機器の充実と活用に努めることで、保護者の理解も深まり、**教員【92%】・保護者【86%】**という高い達成度となった。

今年度

2年目となる今年度は、「歯みがきの習慣化」については、家庭との連携をさらに進め、朝食後や夕食後、休業中も、学校同様の取組がなされるよう協力体制を整えていく必要がある。
「情報機器活用能力の向上」については、情報機器の整備を進めるとともに、校内研修を一層充実させることで、活用のノウハウを全教員が修得し主体的な学びの実践につなげるようにする。

行動Ⅰ

歯みがきの習慣化

毎食後、進んで歯みがきに取り組もうとする。

- ① 児童生徒が行う歯みがきについて具体的な目標設定を行う。
- ② 児童生徒が目標が達成できたら歯みがきカレンダーに記録する。
- ③ カラーテスターで磨き残しを確認し、図示して保護者に知らせることで、磨きにくい場所を意識して取り組めるようにする。
- ④ 期間を定めて家庭用歯みがきカレンダーを配付し、実態把握と家庭との連携に生かす。
- ⑤ 各種便りで、保護者への啓蒙を図り、家庭での実践につなげる。
- ⑥ 親子歯みがき教室を開催し、歯科医師と歯科衛生士による保護者への歯みがき指導を行うことで、家庭での正しい口腔ケアの習慣化を図る。
- ⑦ 児童生徒会を中心に歯みがき強化週間を設定し、歯みがきを呼び掛けることで、全児童生徒の意識化を図る。

情報機器活用能力の向上

情報機器（ICT）を活用し、主体的に表現しようとする。

- ① 学習の様子を写真やビデオで記録し、振り返りに活用することで成長を自覚させる。
- ② 調べたことをプレゼンテーションソフトでまとめたりホームページに記事を書いたりすることで、情報の発信の方法を身に付けさせる。
- ③ タブレット端末や視線入力装置を活用して、複数の中から選択して意思表示する力を身に付けさせる。
- ④ シンボルカードや会話補助装置を活用して、2～3語文をつくることで、思いや考えが伝わる喜びを味わわせる。
- ⑤ タブレット端末やスイッチ等の操作により音や光・動き等の刺激を楽しませることで、自発的な手指の動きを引き出し、欲求を表現させる。
- ⑥ 情報機器（ICT）の効果的な活用を目指して授業改善に取り組み、実践例を「研究のまとめ」で紹介する。

中間評価

中間評価

教員・保護者・一部児童生徒への学校評価アンケートにアクションプランの達成度を問う項目を設け、点数化して集計し評価を行う。

- ・ 児童生徒の達成状況を評価する。
- ・ 教師の手立てについて評価する。
- ・ 授業や活動の改善に向けた計画を見直す。

行動Ⅱ

歯みがきの習慣化

①～⑦を継続

情報機器活用能力の向上

①～⑥を継続

年度末評価

年度末評価

教員・保護者・一部児童生徒への学校評価アンケートにアクションプランの達成度を問う項目を設け、点数化して集計し評価を行う。

- ・ 児童生徒の達成状況を評価する。
- ・ 評価結果を保護者向け案内で公開する。
- ・ 学校評議員会で結果を示し、意見を仰ぐ。

次年度

指導・支援の成果と課題を明確にして、次年度の重点目標と達成目標を設定する。

平成31年度 アクションプランの作成について

今年度のアクションプランについては、学校評価の結果でお伝えした通り、教員・保護者とも高評価をいただき、目標としていた80%を大きく上回りました。

そこで、次年度は、2か年計画でスタートした本年度のアクションプランを基本的には引き継ぎ、さらに、高い目標を設定して行動計画を組みたいと考えます。

校長先生より、「健康保持」と「伝える力の育成」が、現在の本校の児童生徒にとって大切であるというお考えをいただいています。

「健康保持」は、引き続き歯みがきの習慣化に取り組み、ひいては生活リズムを整えることにつなげたいと思います。今年度の学校評価では、「家庭における適切な生活習慣」がワースト3にあがりました。そこで、「家庭との連携強化」を目指して、保護者参加の歯みがき教室と家庭での歯みがき評価カードを実施してはどうかと思います。

「伝える力の育成」は、引き続き情報機器活用能力の向上に取り組み、主体的な意思表示ができる→相手に伝わる→コミュニケーションを楽しむといった「表現力の強化」を目指してはどうかと思います。具体的な方法としては、すでに先生方が実践しておられる、シンボルカードやクイックトーカー、視線入力装置等を活用した意思疎通です。これを、機器の充実を図るとともに教材紹介の研修を充実させて、全教員で共有、実践できれば、今まで知りえなかった児童生徒の思いや考えに触れることができ、ご家庭での導入も促されるのではないかと考えます。

このような考えから、作成したのが裏面の（案）です。目標数値は80%と据え置き、文言を一部変えることで、「家庭との連携強化」と「表現力の強化」をにじませました。

まだまだ、素案につき、忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思います。先生方のご意見を参考に修正し、次年度4月の職員会で提案したいと思いますので、よろしくお願ひします。